

発表テーマ 「食」ではぐくもう 豊かな心

～「食」の大切さをともに学び、生活に生かそうとする本町っ子の育成～

川口市教育委員会【実践中心校 川口市立本町小学校】

1 はじめに

平成17年食育基本法の制定、平成20年学校給食法の改正、そして新学習指導要領に見られるよう、学校教育における食育の役割は大きくなっている。学校における食育は、学校の全教育活動を通して行われるものであるが、より効果的に推進していくために、教科等授業の中で「食に関する指導」をどのように位置づけ行っていくか、さらに、児童生徒の望ましい食習慣の形成のために、学校・家庭・地域がどのように連携していくかが重要であると考えた。

そこで、以下の2つのテーマを設定して研究に取り組み、食育の推進を図った。

テーマ1 栄養教諭がコーディネーターとして行う教科等における「食」に関する指導のあり方

テーマ2 栄養教諭が核となる、学校・家庭・地域の「絆」を深める食育の推進

【テーマに対する主な取組】

〈テーマ1〉

- ・食に関する指導の目標を踏まえた授業
- ・食生活学習や資料を活用した授業
- ・学級担任と栄養教諭によるT・T授業
- ・食の大切さを生活に生かそうとする活用力の育成
- ・掲示物の作成と充実

〈テーマ2〉

- ・学校公開等における食育授業の公開
- ・食の重要性の家庭・地域への啓発
- ・食に関する情報発信
- ・家庭・地域と連携した食育体験活動
- ・研究校視察や研修会の実施

2 取組

(1) 学級担任と栄養教諭との連携による効果的な指導のあり方

1年 学級活動『きゅうしょく だいすき！

しょっかんからっぽ だいさくせん！』



栄養士や調理員の給食に込められた思いを知り、残さず食べようという意識を高める。

4年国語『「かむ」ことの力』



導入で、日頃の給食活動と教材文を関連させ、「かむ」ことの効果や大切さについて理解を深めるとともに、発展学習として標語を作り、学んだことを学校全体に呼びかけながら生活への意識を高める。

5年 社会『これからの食料生産』



食料の輸入や食料自給率の問題を考え、これからの日本の食料生産のあり方を考える。

日本と外国の食料事情の違いや主人公の思いにふれながらものを大切にする心情を育てる。

6年 道徳『残されたえびになみだ』



(2) 体験活動を通じた食育の実践

校舎改築のため、1学期は植木鉢で栽培。地域生産者の指導により、土作りから始まり、9月から種まき苗植えを行った。また、6年生はファームの他に、一人一鉢で野菜を栽培した。



〔保護者も一緒に耕しました〕

(3) 掲示を活用した『食育』指導
【各学年・学級の掲示コーナー】



(4) 食育インフォメーションの発行
毎月発行。ホームページにも掲載し、地域の方に広く取組を知ってもらう。



(5) 『わくわくクッキング』（親子料理教室）

夏季休業中に実施。小中連携として南中学校生徒も一緒に調理した。さらに、市内栄養教諭との連携を図り、「バランスのよい朝ごはん」作りに親子で挑戦したあと、ランチルームで会食した。



(6) 地域人材の活用

家庭科の授業で「お弁当作り」を実践。地域で料理店を営む方を招き、料理の話を聞いたりプロの技を見せてもらったりしながら料理への関心を高めた。また、実習では、「地産地消」を意識し、栄養のバランスを考えたオリジナル弁当を作った。



(7) 『食育2010!』（学校保健委員会）

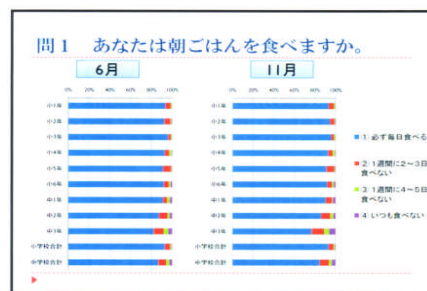
教職員、児童、保護者、学校医、市内栄養教諭等が参加し、健康問題について発表と協議を行った。小中連携として中学校の生徒も参加し、バランスのよい朝食の取組についてパネルディスカッションを行った。



〔パネルディスカッション〕〔グループディスカッション〕

(8) 食育アンケート（実践中心校・研究協力校）

- 調査対象者 小1～3年・4～6年、中1～3年
- 調査時期 平成22年6月 および 11月
- 調査校 実践中心校および研究協力校



3 おわりに

学校給食を教材として生かしながら、全教育活動を通して食育を推進していった結果、児童生徒や保護者の食に対する意識が高まり、朝食欠食率の減少や食事の内容の充実等が見られた。今後は、評価について研究を深めていくとともに、さらに家庭や地域に啓発し、食育の大切さを広めながら、学校・家庭・地域が一体となった食育を推進していく。